



愛知県の
産地の現状

- 🍁 「みどりの食料システム戦略」では、化学肥料の低減の取り組みとして、作物の生育タイミングに合わせた肥効調節型肥料の高度化が挙げられている。
- 🍁 愛知県の水稻作付面積27,400haのうち、約90%で肥効調節型肥料を用いた全量基肥栽培が普及している。
- 🍁 現在普及している肥効調節型肥料は、被覆材としてプラスチックが使用されており、環境保護の観点から代替え等が求められている。



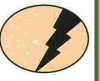
農総試での
関連研究成果

- 🍁 各肥効調節型肥料の肥料成分の溶出特性と水稻の生育ステージ別肥料吸収量に合致した全量基肥施肥法を開発した。



解決したい
困りごと

- 🍁 全量基肥栽培は施肥回数の削減による省力化、施肥量の削減、養分の流出防止などの利点があるため、県内に広く普及しているが、使用している肥効調節型肥料の被膜資材（プラスチック）が河川や海へ流出することが問題となっている。
- 🍁 分解が早く河川等への流出しない被膜資材として、新たな生分解性素材等を使用した代替肥料の開発が求められている。



解決案

🍁 **プラスチック被覆に頼らない肥効調節型肥料の実用化**

水田における環境に配慮した、生分解性素材を用いた肥効調節型肥料を開発するとともに、肥料の溶出特性の解析と栽培試験による実証評価を行い、プラスチック被膜に頼らない肥効調節肥料の実用化を図る。

担当者：環境基盤研究部・環境安全研究室・大橋祥範